

山梨医療安全研究会会報



10月27日(土曜日)県立大学池田キャンパスにおいて「誤嚥防止」をテーマにシンポジウムを行ないました。悪天候にも関わらず約200名の参加があり、大きな学びとなりました。シンポジストとして、甲府城南病院聴覚言語療法士・中村春江氏、山梨県歯科衛生士会歯科衛生士・牛山京子氏、北杜市甲陽病院管理栄養士・堀込かずみ氏にご講演いただきました。参加者からも多くの反響をいただきました。

「誤嚥防止」シンポジウム開催される

嚥下に関わる基礎から、口腔の仕組みやケアの仕方についての説明がわかりやすくよかったです。

口腔ケアの大切さ・必要性・重要性を改めて実感した。とても身近に感じられる内容で、すぐ実践できそうなので取り入れていきたい。

患者に合わせた食事形態で摂取できること、一口でも多く食べられることが大切だと思った。どの患者にどのような食事形態が合うのか、食事形態の重要性を学ぶことができた。



～医療安全研究会の活動紹介～

テルモメディカルプラネクス見学！



この総合研修センターはテルモ湘南センターに隣接した施設で、延べ床面積7,000㎡の中に展示室、手術室、内視鏡室、ホスピタルスタジオ、シュミレータ室などを擁し、研究や実験、手技トレーニングなどが行えます。静脈注射シュミレータなども完備されています。来年度からは有料で一般にも施設を開放してくれるそうです。余談ですが、テルモの創始者のひとりが北里柴三郎であったということも驚きでした。



アンブルピッカーによる注射薬自動梱包システム

見学ツアーは医療安全とIT利用を考える目的で行われ、看護師・事務・放射線技師からなる総勢30名が参加しました。施設見学は独立行政法人労働福祉事業団横浜労災病院に行きました。650床のこの病院は平成17年2月から電子カルテを導入し、薬局内では松下アンブルピッカー運用による時間短縮・施用単位ごとのセット、バーコード使用による3点認証、抗癌剤のレジメン管理などのメリットを医療安全に役立てています。



病棟におけるPDA利用



事故防止マニュアルプロジェクト活動内容

今回、「医療機関における事故防止マニュアルのあり方についての検討」に取り組んでいます。メンバーは3施設4名のメンバーです。7月に4施設のリスクマネージャーにグループインタビューを行い、①マニュアルの書式、項目、内容、特徴、②マニュアルの評価と改正、③マニュアルにおける工夫、④マニュアルを周知させる工夫、方策、について聞き取り調査を行いました。その中で、4施設の具体的な取り組み事例などがわかり、それぞれの施設にあったマニュアルを模索しつつ、現在も進化させ続けているのだと感じました。大会ではその結果をご紹介します。今後のマニュアル作成や活用に参考になる内容だと思います。

事故発生時対応検討プロジェクト活動内容

各施設では事故発生時の対応マニュアルが作成されていますが、重大事故が発生した場合に全職員が適切な初期対応ができるかという不安をもち、事故発生時の対応マニュアルはどうあるべきかを公立病院・民間病院・老人保健施設の看護管理者6名で検討してきました。すでに発表されている事故発生時対応シュミレーションを基に、組織や役割の違う病院や施設で活用できるようチャートにした①救命処置編(発生直後の対応)②連絡・体制編(管理者への緊急連絡から事故対策立案まで)と③事故発生時の対応チェックシート(マニュアル周知のためのチェックシート)も合わせて作成しました。それぞれの施設で既存の事故発生時の対応マニュアルを見直す機会となり、職員への教育・訓練のために活用できればと思います。

平成20年2月2日 第3回医療安全研究会総会で報告します。

